「趣意書」

「八重子のハミング」山口七夕会東京応援隊

特別団体鑑賞券（￥1,000円）を購入してくださる応援隊員募集！

**山口七夕会（以下、「七夕会」）会員である佐々部清監督作品「八重子のハミング」が、ＧＷ明けから全国で順次ロードショーされます。七夕会は会をあげてこの作品を応援したいと考えており、会員の皆さんはもちろん、ご家族、ご友人、職場の方々にお声かけいただき、一人でも多くの方にこの作品をご覧いただけるよう、チケットの購入、拡販に向けてご協力を宜しくお願いいたします。   
　この作品を七夕会が応援する理由は二つあります。   
　一つは、佐々部清監督が下関市出身の七夕会会員であり、「八重子のハミング」が山口県を舞台にした作品であるからです。「八重子のハミング」は、山口県の豊かな自然環境を背景に、多くの山口県ゆかりのみなさん（※）のご尽力により完成した作品です。そして、この作品が世に出るまでには、製作者であり、監督・脚本も務められた佐々部監督の並々ならぬご苦労と決意がありました。関係する業界や団体との調整も必要でした。いくつもの壁を乗り越えて完成したこの作品は佐々部監督が自らの手で生み出した、まさに命がけの作品です。**

**もう一つは、この作品の持つ社会的意義を、みなさんがご家族と一緒に考えていただきたいからです。この作品で描かれるのは、高齢化社会における介護です。介護、それも認知症患者が相手となると、決して生易しいものではなく、そこには厳しい現実があります。今を生きる私たちは、その現実に、我がこととして向き合わなければなりません。それでも私たちは、孤独な戦いを強いられる訳ではありません。そこには、支えてくれる人がいます。夫、妻、親、兄弟、子の、そして教師や教え子の、さらには友や仲間、街のたくさんの人々の、限りのない優しさが、私たちを支えてくれます。**

**七夕会のみなさま、愛、優しさ、そして人間の尊厳を、「八重子のハミング」で感じてください。みなさまやご家族、ご友人の優しさを、「八重子のハミング」に注いでください。「八重子のハミング」を観終わった皆さんと、この映画について語ることができる日を楽しみにしています。   
　 今この時も、八重子のハミングが聴こえてくるようです。**



**山口七夕会**

**東京本部長　椙山　俊哉**

**【※山口県にゆかりのみなさん】**

★**原作：陽信孝（萩市在住）…原作者。**

**★音楽（劇中音楽）：穴見めぐみ…下関市出身（梅光学院高校→東京藝術大学）でピアニスト・作曲家。**

**★題字（メインタイトル）：村上真実…（山口市在住）の書家。**

**★スチール（写真）：下瀬信雄…（萩市在住）の写真家。一昨年、土門拳賞を受賞。**

**★次女・百合子役・安倍萌生（めぐみ）…宇部市出身、2014年ミス青山学院大学。**

---------------------------------------------------＜切り取り線＞--------------------------------------------------

山口七夕会/特別団体鑑賞券（￥1,000円）申込書

1. 郵送＝申込書を切り取って、〒190-0161あきる野市入野415-19山縣正彦宛に郵送
2. FAX＝042-596-4816　③Mail＝以下の情報をyamagata1954@utopia.ocn.ne.jpへ

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| お名前 | ふりがな | 〒 | 住所 |
|  |  | - |  |

【連絡先】

|  |  |
| --- | --- |
| ○電話（自宅） | －　　　　　　　　　　　　－ |
| ○電話（携帯） | －　　　　　　　　　　　　－ |
| ○メールアドレス | ＠ |

【購入枚数＆振込金額】【　　　】　枚×1,000円＝【　　　　　,　　　　　】円

**※購入の流れ⇒①郵送②FAX③Mailで購入申し込み⇒山口七夕会口座へ払込⇒「団体鑑賞券」郵送or手渡**

**【振込日or手渡受領日：　　月　　日】＝事務局記入欄**

【「八重子のハミング」山口七夕会東京応援隊】

◇問い合わせ/山口七夕会　幹事長　山縣正彦

　042-596-4816（留守電対応）・090-9954-7746（18時以降）

【振込先】郵便払込票（青）

口座記号番号：1360-6-52923

加入者名：山口七夕会

**団体鑑賞券￥1,000円**

**（申込書＆趣意書＝裏面）**

**山口七夕会は、佐々部監督を応援します！**

**2017年5月**

**東京から全国公開！**へ！

山口ふるさと大使＆萩ふるさと大使

山口七夕会・会員



**1958年、山口県下関市出身。  
明治大学文学部演劇科専攻、横浜放送映画専門学院（現・日本映画大学）を卒業後、フリーの助監督を経て、2002年『陽はまた昇る』で監督デビュー。以降、映画『チルソクの夏』(日本映画監督協会新人賞)、『半落ち』(日本アカデミー賞最優秀作品賞)、『四日間の奇蹟』、『カーテンコール』、『出口のない海』、『夕凪の街 桜の国』、『結婚しようよ』、『三本木農業高校、馬術部』、『日輪の遺産』、『ツレがうつになりまして。』、『六月燈の三姉妹』、『東京難民』、『群青色の、とおり道』、『ゾウを撫でる』、『種まく旅人～夢のつぎ木～』など監督作品多数。他に、TVドラマ『心の砕ける音』(WOWOW)、『告知せず』(テレビ朝日開局50周年スペシャル／芸術祭参加作品)、『看取りの医者』(TBS月曜ゴールデン)、『波の塔』(テレビ朝日)、『痕跡や』(テレビ東京)、『本日は、お日柄もよく』(WOWOW)、舞台『黒部の太陽』の演出なども手掛ける。**



**山口県のとあるホール。「やさしさの心って何？」と題された講演。  
妻・八重子の介護を通して経験したこと、感じたことを語る白髪の老人、石崎誠吾。  
「妻を介護したのは12年間です。  
その12年間は、ただただ妻が記憶をなくしていく時間やからちょっと辛かったですいねぇ。  
でもある時、こう思うたんです。妻は時間を掛けてゆっくりと僕に お別れをしよるんやと。  
やったら僕も、妻が記憶を無くしていくことを、しっかりと僕の思い出にしようかと…。」  
誠吾の口から、在りし日の妻・八重子との思い出が語られる。  
教員時代に巡り会い結婚した頃のこと、八重子の好きだった歌のこと、アルツハイマーを発症してからのこと…。**

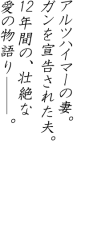


**かつて音楽の教師だった八重子は、徐々に記憶を無くしつつも、大好きな歌を口ずさめば、笑顔を取り戻すことも。  
家族の協力もあり、夫婦の思い出をしっかりと力強く歩んでいく誠吾。  
山口県・萩市を舞台に描く、夫婦の純愛と家族の愛情にあふれた12年の物語。**

**四度のガン手術から生還した夫が、**



**若年性アルツハイマー病の妻を介護した4000日の記録。  
介護をする家族の苦悩は計り知れないものがあるが、  
著者の陽信孝(みなみ のぶたか)氏は互いに迫りくる死の影を見据えつつ、  
次第に童女となっていく妻との毎日を力強く歩んでいく。  
闘病・介護・夫婦愛を考え、著者が詠んだ短歌とともに綴る、  
究極の夫婦の純愛物語。(小学館文庫　著：陽信孝)**



【「八重子のハミング」山口七夕会東京応援隊】

☆シニア応援隊長・武内衛子

☆ヤング応援隊長・椙山俊哉

◇問い合わせ/山口七夕会　幹事長　山縣正彦

Mail/yamagata1954@utopia.ocn.ne.jp　　　　　　　　携帯/090-9954-7746（18時以降）